

□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名

グループホーム らるご

※

日付

平成18年3月31日

特定非営利活動法人

ライフサポート

評価機関名

評価調査員

在宅介護経験15年

評価調査員

在宅介護経験11年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

※

外部評価の結果

調評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

男性4名(当日1名入院中)と女性4名のバランスのとれた家族の集団を思わせる。殆どの利用者が広いリビングルームで寛いでいた。今日は入浴の日で、殆どの人が午前中に入浴する。「着替えを用意しましょうね」と入浴する利用者に職員と一緒に部屋で準備をする。一人ずつ入浴が終わると、サッパリした顔をしてリビングルームに帰ってくる。「朝風呂は良いですね。羨ましいなあ」と男性利用者に声をかけると「そうだね。気持ちいいよ。身上潰すかもしれないね」と。「お酒飲まないから大丈夫ですよ」とたわいない話をしていると「あんたも後で入れればいいが」と女性利用者が誘ってくれ、「ありがとう、うれしいわ」と和やかに返した。

元中学校の校長をしていた男性、83歳とは思えない風貌の紳士。『○○さん、△△さん、ちょっと手伝ってください?』とこの二人に洗濯量をホーム長がお願いし、一段高い座敷に乾いた洗濯物を置いた。二人ともきちんと角を合わせて、伸ばしながらタオルをきれいに畳んでいく。「きれいに畳まれすね。よく慣れているけど、ご自分の家ではしたことないでしょ!」と男性に語りかけると「いやあ!これで3回目かなあ。この人が教えてくれるのでね」と言いながらも慣れた手つきに照れたかな。女性が「これも一緒に重ねていて。それはこよよ」と指図していた。成る程なあと微笑ましい光景を見せてもらった。

このグループホームでは誰でも平等、出来る事は何でもする。

特に改善の余地があると思われる点

次のような提案をした

利用者がグループホームでの暮らし振りを家族に伝える方法として、家族の訪問のときに伝える、また写真を送るなどとしてこなれていますが、写真に文をつけて定期的に「たより」として送る。そこに行事の予定、参加の希望、家族の意見なども書き加えて家族との交流が広がると嬉しい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「不満や不安に思っている事を口に出せるような関係作りに努める」「興奮し、感情的になった時でも、その行為だけに気を向けるのでなく、その奥に隠された原因を探るよう心がける」この2つがアンケートに答えたこのグループホームのケアについての答えの一つだ。		
	一人ひとりの認知症の病気について理解し、その人の症状の変化に敏感に対応し、ケアしていこうとする管理者の心構えを知った。いろんなケースに対処できるケア技術を職員と共に身につけていくであろう。今後のケアの質の向上に期待したい。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	玄関に入ると、一直線に伸びた広い廊下があり、その両側に居室とトイレがある。トイレは2室に1つあり、2人が専用に使う事が出来るが、男性の増加で男性用トイレと女性用トイレに区別している。		
	その奥に広いリビングルームや厨房、浴室など水周りがある。リビングルームは天井も高く、表情豊かな居間を形成し、ゆとりある心地を感じさせる。その上に一段と高い座敷の間があり、大きな丸机があり、利用者全員で円座が組めるようになっている。碁盤と座椅子があり、男性陣の楽しみの場だろう。		
	外には広いテラスがあり、お茶を飲んだり、バーベキューパーティーをして、地域の人を招いたりする。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	「一人ひとりの生活歴や趣味を生かし、また現在行える事を探し、楽しみや役割を日常生活で持って頂けるようにする」「以前からご本人が楽しまれていたこと、趣味を継続出来るよう支援する」こんなケアの具体的な方針を掲げている。		
	厨房で各自の盆に昼食の皿や鉢が置かれ、歩ける利用者は自分自身で席に運ぶ。食べ終わるとカウンターに返す。自分のものは自分でする事の一つである。		
	利用者の元気な時の仕事や商売、家庭の事を一人ひとりに聞くと、皆さんそれぞれ楽しかったこと、働いたこと、苦労したことを楽しい思い出として話してくれた。この話を掘り下げて考えると、それぞれの人のケアや生き甲斐を作ることに随分参考になるのではないかと思った。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供		○
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	表町でお店を仕切ってきた女性が、アルツハイマー病を患ってしまった。何十年もの苦労が悲惨な現実となってしまう、その店の存続を果たせなかった無念さを面会に訪れたご主人から聞いた。「今になってみると、妻が自分のこと、店のことを分らないことが、却って幸せかも分からない」と言ったことが胸を詰まらせら。そして「このグループホームで、笑顔一杯で穏やかに皆さんと生活している妻を見ると、ここでお世話になって良かったと本当に思います。家ではとてもこんな姿は見られなかった」と続けた。		
	このような家族の気持をグループホームの代表から職員まで一丸となってどう受け止め、今後の利用者の幸せを追求できるか真価を問われると考える。		